

高校生の保護者様向け ML 案内文（例）

※題名・冒頭文は、各学校にて自由に編集してご利用ください。

※メーリングリストの文字数制限がある場合、

大阪医科薬科大学病院からの案内文の後半（『若いから大丈夫』以降）をカットしてご使用ください。

【題名】 HPV ワクチンのキャッチアップ接種のお知らせ

【冒頭文】

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、大阪医科薬科大学病院から、子宮頸がんを予防する HPV ワクチンについてのご案内が来ております。資料のデータを添付し配布いたしますので、ぜひご覧ください。

以下の文章は、大阪医科薬科大学病院からのご案内となります。

=====

女子生徒の保護者の皆様

現在、大阪医科薬科大学病院では、子宮頸がんを予防する HPV ワクチンに関する情報提供を行っています。

厚生労働省は、16歳～27歳（1997年4月2日～2008年4月1日生まれ）の女性のうち、HPV ワクチンの定期接種の機会を逃してしまった方に対し、2025年3月末まで、「キャッチアップ接種対象者」として住民票のある自治体にて無料でHPV ワクチンが接種できる機会を提供しています。（公費での接種期間が終了しますと、任意での接種となり、約4～10万円相当の実費負担となります）

「知らなかったと後悔しないでほしい」という思いのもと、接種有無を決断していただけるように、医療機関から信頼できる情報を発信しています。

つきましては、以下の資料を添付しますので、ぜひご覧ください。

- ・（添付資料） キャッチアップ接種 公費期限と接種手順について
- ・（リンク） 厚生労働省 ～キャッチアップ接種のご案内～

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_catch-up-vaccination.html

なお、HPV ワクチンは、15歳以上の方だと3回の接種が必要となり、最短で約半年間かかりますので、接種を検討中の方は、2024年9月頃までに1回目の接種ができるよう計画的な接種をおすすめします。（2025年3月末でキャッチアップ接種が終了しますので、定期接種対象者の方も、遅くとも高1の9月までに1回目の接種をおすすめします）

接種を迷っている方は、HPV ワクチンの効果とリスクについて説明している動画もぜひご覧ください。

子宮頸がんと主な原因などの基本的な情報から、ワクチン接種後の症状で困ったときのことまで解説しています。ご自身にとって必要な部分をご覧ください。

<https://youtu.be/Z7o9gpIm494>

添付資料と動画は、どなたでも自由にご覧いただけます。各ご家庭でお役立てください。

【問い合わせ先】 大阪医科薬科大学病院 HPV 事務局

『若いから大丈夫』じゃないがん、それが子宮頸がんです。

日本では、毎年約 1.1 万人が子宮頸がんにかかり、約 2,900 人がなくなっています。20 代・30 代の若い世代で急増するのが特徴です。30 代までに治療の過程で子宮を失う人も年間約 1,000 人いると考えられており、手術や後遺症でライフプランが大きく変わってしまう可能性があります。子宮頸がんは、毎年多くの若い女性から「いのち」と「未来」を奪っています。

日本産科婦人科学会の推定によると、すべての女性のうち、50～80%が生涯で HPV に感染するとみられます。男性も同様に、性交経験のある人のほとんどが感染すると考えられています。HPV はそれくらい「ありふれたウイルス」で、普通の生活の中で感染するウイルスです。子宮頸がんは決して、性に奔放な人だけがなるがんではありません。

子宮頸がんの予防には、ワクチン接種（HPV ワクチン）が有効です。

現在、公費で接種できる HPV ワクチンでは、子宮頸がんを 50～90%予防できるといわれています。接種するか迷っているうちに、無料で受けられる期間が終わってしまわないよう、接種有無の決断の一助になれば幸いです。